

子の神社 川崎市麻生区早野字富士山下 65

本宮である出雲大社の分霊を勧請して大國主命が祀られている。

鼠は大國主命の神使とされ、神使の名前を「十二支」の子になぞらえ、神社名になったと言われています。子の神社の主祭神大己貴命(大國主命の別名)は農民の守護神、台所の神、縁結びの神と言われています。

言い伝えによれば、寛永4年駿河国富士山が噴火して関八州に降砂あり、村民は驚きて何か天災地変の前兆なりと五穀成願せんとしてご神体到大國主命を祭りこの地に子の神社を建立せる時は寛永5年(1628年)12月なりと伝える。(境内説明書き)

境内の隅に庚申塔と文政2年と刻まれている供養塔が安置されている。



周りは田んぼや畑が



本殿



庚申塔



供養塔